

歳末たすけあい運動

ひとの心の暖かさ

今年の目標額 53億8千万円

「ひとの心の暖かさ——歳末たすけあい」——今年も恒例の歳末たすけあい運動が、十二月一日から三十一日まで、二か月間におたつて行われます。

この運動は、赤い羽根の共同募金運動（十月～十二月）の一環として、十二月に限って毎年行われているもので、生活が困難な世帯や、災害被災家庭、ひとり暮らしの老人、あるいは社会福祉施設の利用者に対し、「みんなそろって明るいお正月をむかえられるよう」

物心両面の援助をしようというものです。

こうした善意による「たすけあい運動」の起源は、古く「講」にまでさかのぼるといわれ、庶民の互助精神は、脈々と今日まで受け継がれて、毎年多くの恵まれない人々に喜ばれ、効果をあげています。

「お手伝いをして、もらったお小遣いをためました。気の毒なお友達にあげてください」とあきかさんを利用した貯金箱いっぱいのお



暖かいお正月を…中学生ホームへ寄付

横芝中学校生徒会（会長・斉藤昌孝）では、さる十一月十四日の文化祭の時に行った、バザーの売上金（三万円）を、養護老人ホームへ寄付しました。

これは、同生徒会が昭和五十年から行っているものです。同ホーム所長は「年寄りのお正月のもち代にさせていただきます」と話していました。



製造業のみならず、通商産業省では昭和五十五年十二月三十一日現在で、昭和五十五年工業統計調査を実施します。

工業統計調査 協力をお願い！

金を持参する小学生や、「毎日、財布に残った一円玉が、一年間でこれだけになりました」と五千円余りを送ってきた主婦など、昨年は全国で、目標額を大きく上回る、六十二億四千六百万円のお金が寄せられました。このうち、必要経費を除いた約六十一億一千八百万円は、社会福祉協議会などを通じて、生活困難世帯（二十三億八千万円）、ねたきり老人（十二億六千万円）、精薄・肢体不自由児

（八億七千万円）などに、越年資金や正月支度金、日用品、毛布などの形で支給されました。

この歳末たすけあい運動は、民生委員や社会福祉協議会、町内会や婦人会などを中心に行われる地域単位のたすけあいと、NHKが放送を通じて全国に呼びかけるもの（十二月一日～二十五日まで）との二通りの方法で展開されます。

今年の目標額は、五十三億八千

定資産額などを調査し、工業の実態を明らかにすることを、目的としています。

工業統計は、国や地方公共団体の産業構造政策、立地、水資源対策、中小企業施策などの立案のための基礎資料として用いられるほか、一般企業の需要予測・設備投資計画など、広範に利用されています。

調査をお願いする製造事業所へは、調査の期日までに、お伺いします。この協力をお願いします。なお、調査票に記載された内容は、外部には絶対おしらせませんので安心してご記入ください。

みんなでなくそう 不法投棄！

年末になると、町内各地で不法投棄による、ゴミの山が目立ちます。このため町では、不法投棄摘発のパトロールを強化、実施中です。

不法投棄を

みかけたら

通報を！



万円です。今年もぜひ、あなたの「善意の灯」を恵まれない人々のためにお寄せください。